

十周年を祝う 十二月号

# ゆずむすめ新聞

平成二十六年 十二月発行

## 【発行所】

農事組合法人  
古座川ゆず平井の里  
和歌山県夏冬郡  
古座川町平井4659  
TEL 0735-77-0123



先日まで、賑やかな音を響かせていた搾汁工場も十一月最後の週に作業を終了しました。昼休みに工場裏で演奏していた勇来たちも姿も見えず、一抹の淋しさを感じますが、そんな余韻に浸っている間はありませぬ。加工品の製造作業は年末まで大忙しです。

雪まじりの木枯らしが響く朝、凍えた手に鼻を吹きかけ少し背中を丸めて足早に加工場に向かいます。加工場の中は暖かく、熱気に溢れています。さあ、今年も年末まで走り抜きましょう。

## 平井の里誕生から

# 「十周年を祝う会」が開催されました

ありがとうございます。おかげさまで今年、「農事組合法人平井の里」が誕生してから十周年を迎えました。これまで柚子を大切に育てられてきた先輩の皆さんと、お世話になった方々へ感謝の気持ちを込めてその記念式典が十一月二日に盛大に執り行われました。

開会宣言のあと、羽山勲代表より挨拶があり、「林業不況のあとと柚子生産に望みを

掛けた諸先輩方の苦勞と努力により、生産組合が誕生し、六十周年ゆず婦人部の誕生、その母体から平成十六年、農地組合法人平井の里が誕生、新工場建設のあとの苦勞を乗り越えて現代に至った経緯等の説明がありました。

そしてこれまでご尽力頂いた方々への感謝状の授与式がありました。



また来賓の皆様より祝いと励ましの言葉を頂きました。

武田町長より、田舎で地域を支える雇用の場としての役割、町長自身がPRのため東京の玉川大学へ出向いたりしてされて

いること等について話されました。



モスフードの須崎様からは柚子ドリンクが全国のモスバーガー店からオファーを頂いていることや、柚子の詰め合わせセットが桜田社長を始め、社員の贈答品に大変喜ば

た。また会場内では「ゆずの里の歩み」写真展として、古い建物等歴史を示す写真、若い日のみんなの写真が展示され、賑わいを見せていました。昼食は平井伝統の「うすみ」を会場内のテントの中で皆で楽しくにぎやかに頂きました。

締めくくりはやはり解散まで。

お世話になった皆様、ありがとうございました。来年もよろしくお問い合わせ致します。

## トンペイさん ありがとうございます

今日の午後は紀の川市出身で和歌山を代表するシンガー、トンペイさんのミニコンサートが会場内で行われました。バンドにはそれぞれに音楽活動をされている同級生の木村さんと井山さんがこの日のために参加してくれました。

かせるバラード「夢の途中」が聞ばれ、聞ばれえの言葉がなぐんぐん気持ちよく染み渡ります。皆のリクエストによるひばりさんの「川の流れるように」、会場



の皆さんはうなずきながら真剣に聴き惚れていました。最後にみんなで合唱した「ふ

るさと歌いながら涙があふれそうでした。トンペイさんも私達もまだ夢の途中、お互いに頑張ります。

（後日、トンペイさんより、メッセージを頂きました）

先日はありがとうございました。初めて訪れた古座川平井の里、素晴らしい自然と賑わい皆さんにお会いでき、又歌も聴いていただけ、本当に感謝と感激です。ありがとうございます。又柚子はもうあつらひは最高い向を食べるにちも、いつちの備にポン酢、タレはあります。また柚子で新しい食品を開発していただけることを楽しみにしています。私は平井の里のテーマ曲をつくりたいです。では又是実行かけて頂きます。その日まで皆さんお元気で！

TONPEI

トンペイさんを紹介して下さいたのはやはり同級生の紀ノ川農協組合長の宇田さんです。ありがとうございます。

【柚子産】